



うえだ・あきふみ
大阪府生まれ。NPO法人市民科学研究室代表。「市民のための科学」の視点から、電磁波、放射線等さまざまな領域での研究を進める。著書に『原子力と原発きほんのき』（クレヨンハウス）など。

ちょっと気になる 香りのはなし①

洗剤・柔軟剤に、制汗剤、整髪料。電車のなかで、こどものお友だちから、隣のベランダから……。

NPO 法人市民科学研究室代表 上田 昌文

「香害」ってどんなもの？

二人に一人が経験、それでも……

あなたは電車のなかで、隣にいる人の衣服からの強烈な香料のニオイが鼻をつき、息が詰まるような思いをしたことはないでしょうか。

柔軟剤によるこうした場合にかぎらず、「よい香り」を漂わせるために、香水・化粧品はもとより、いまや、消臭スプレー、洗剤、防虫剤・殺虫剤、整髪料、制汗剤など、香料入り製品があふれ返るようになりました。これらの香料のほとんどは、石油化学工業やパルプ工業などから安価かつ大量に得られる製剤を使って化学合成されたものです。日本では現在、輸入品をふくめて五〇〇種類ほどが流通しています。ただし、個々の製品にふくまれている香料の成分は、企業秘密との絡みで、パッケージの表示ではただ「香料」とだけ記されているものが圧倒的多数です。

「柔軟剤の香りで体調を崩したと訴える相談が二〇〇八年度の一四件から二二年度には六五件と五年間で五倍近くに増えた」との報告^{*1}が出て、公害ならぬ「香害」のことはそれなりに知られるようになりましたが、使用量が減ったり制限されたりという話は聞きません。それもそのはず、二人に一人が香害を経験。その体調不良の要因が人工的な香りによってとは知らずに、香りつきのもを日常的に使用している人は約八割におよぶ。

・香害について知っていても定期的に香りつき洗濯洗剤を使用している人は、全体の三六％になる。

・三二％の人が人工的な香料のニオイで頭痛、めまい、咳、吐き気、関節痛などの体調不良を経験しているにもかかわらず、そうした人の二二％が定期的に香りつき洗濯洗剤を使用している。

というアンケート結果からわかるように、香害の現状を軽視している人があまりに多いからでしょう。

いきなり体調を崩すことも

たしかに香りへの感受性は個人差が大きく、「よい香り」と感じる人、なにも気にならない人、多少不快に感じても体調が悪くなるわけではない人は多いのでしょうか。

しかし、たとえそうした人でも、あるとき、強烈な香りを吸引していきなり気分が悪くなって体調を崩すことがあります。そして以後、それ以前にはまったく気にならなかった程度のごくわずかな香り（や人工的な化学物質のニオイ）に対しても、息がでない、吐き気がする、脱力感や筋肉のこわばりが起こるといった症状が出て、頭痛、倦怠感、不眠などが続いて日常生活に支障をきたすようになるとの恐れがあるのです。

この「**化学物質過敏症**」は、これまで住宅の新築やリフォームなどを機に、建材の接着剤の成分を吸引して発症することが多かったのですが、香り商品（香料といくつもの揮発性の化学物質をふくむ）に

よっても、ひきおこされることがわかってきました。アレルギーの発作や喘息の悪化も報告されています。

食品に香りづけ・味つけをする「フレイバー」は食品添加物ですから食品衛生法にもとづく規制がありますが、それ以外の香料（フレグランス）は化粧品香料に適用されるような一般的な毒性試験を通過するだけで（経口毒性、皮膚刺激、日光があたって起きるアレルギー作用など）、実験動物に微量の香料を嗅がせつけて、体調の変化をみる²などといった安全性評価は皆無ですから、**香害に着目しての規制はない**、といえます。

しかし、一部の人々とはいえ深刻な被害が確実に出ていることは事実です。無規制をいいことに、先のアンケートが示すような消費者の意識の低さに乗じて、メーカーがこれを無視することは許されずです。

今回は、香害への対策について、香料とセットでもちいられることが多い界面活性剤や抗菌剤にもふれながら、考えてみます。

*1 国民生活センター「柔軟仕上げ剤のにおいに関する情報提供」（二〇一三年九月一九日公表）
http://www.kokusen.go.jp/news/data/n-20130919_1.html

*2 シャボン玉石けん株式会社 ニュースリリース
「普段身にまわっている香りが、実は健康に悪影響!?」（二〇一七年八月一六日）
https://www.apress.ne.jp/releases/129890/art_129890_1.pdf

「香り付き洗濯洗剤に関する調査」（二〇一六年七月一四日）
https://www.apress.ne.jp/releases/107807/art_107807_1.pdf